g/A

地方電化の現場から

【電化計画の光と絆】

数多いコンサルタント活動の中で、長年、電化計画に携わってきた国がある。アフリカの真珠、ウガンダ共和国である。1991年に首都圏の電化計画に参加し、今なお地方電化計画に従事させていただいている。一人当たりのGNI(国民総所得)は510US \$ (2011年)だが、年平均気温24℃の爽やかな気候は天の贈り物だ。

ウガンダの電化率はきわめて低く、未だ全国平均10%未満である。20年前には4%程度だったので、電化率の伸びは低いと言わざるをえない。人口増加率が年間3.1%と大きく、かつ多額の資本投資が必要な施設整備が追い付かないことも一因だ。一方でウガンダは水力資源に恵まれており、電力のほとんどはナイル川にある水力発電所から供給されている。ウガンダ政府は、その自国産エネルギーを全国民が享受できることを目標に電力施設整備を促進している。わが国は電化計画を同国発展に寄与する重要な事業として、無償資金協力で1991年の首都カンパラ市の配電網整備を皮切りに、継続して地方電化計画を支援している。

その支援当初に建設した首都中心部の変 電所は、法定耐用年数は15年であり、外見 上は当然の様に老朽化しているが、建設か ら20年以上経過しても真摯な維持管理が行 われており、変電設備機能は保たれ首都の

カンパラの夜景

1/3の地域への電力供給を行っている。供用開始後の維持管理の意識の醸成にはどのプロジェクトでも苦労する。本計画で維持管理の重要性は技術移転の最重要項目として、調査・計画段階からウガンダ側へ伝達してきた。日本文化ともいえる物を大切にする心をウガンダ側が理解し、今なお継承されていることに感謝している。

電化計画に従事していると町の明かりが 気になる。カンパラ市郊外の高台にある市 を一望できるレストランからの夜景は、格 別な趣がある。20年前に暗闇に包まれてい た市街は、密集する住宅地からの明かりが 星空の様に輝き、市中心部には経済の発展 を示すネオンが光っている。電圧変動でよ カチカしていた白熱灯も、配電網整備によ り電圧が安定し、蛍光灯が点灯可能なほど に安定した光りに変わった。この明かりの 中で首都機能が守られ、人々が安心して暮 らしていると思うと、コンサルタントとし て計画、設計から建設まで一貫してプロジェクトに参加でき、一国の発展に寄与でき た喜びが沸く。

91年の支援当初は、70年代の内戦で疲弊 した経済の立て直し時期であり資金不足は 顕著で、電力、道路などのインフラの荒廃 は著しかった。停電は頻発し道路もがたが たで、夜道に浮かぶヘッドライトに、前が

見えないほどの虫が群がっていた。日本大使館、JICA事務所もない、首都でさえ"かなりの僻地"であった。その状況下で配電網整備は国の立て直しのための重要な計画であったが、計画に必要な資料はなく、また資金不足の中、可能な限りの現地リソースを活用し、両国で知恵



(一社)海外コンサルティング企業協会 企画委員会 副委員長 八千代エンジニヤリング(株) 常務取締役 国際事業本部長

小宮 雅嗣

を出し合い、実現可能なプロジェクトを計画し実施した。その苦労を知っている当時のカウンターパートはそれぞれが出世し、電力セクターの要職に就いており、会うたびに計画当時の苦節を共有する仲間として迎え入れてくれる。彼らの精力的な仕事ぶりを見ていると、今なお貧しさを克服する知恵と国を支える使命感が伝わってくる。

ウガンダの実施機関も若手技師が成長している。熟練技師者となった古参のカウンターパートたちは、日本支援の経験を事あるたびに若手技師に話している。どの国でも若手の育成と技術・経験の伝承は、国の発展のエネルギー源である。

わが国が支援した変電所もいつしか更新 時期を迎え新たな施設建設が必要となる。 両国の若手技師が時代に即した技術と知恵 を出し合い、同じ目線で物を考え、現場で の汗を共有し計画を実現させる日が来るだ ろう。困難な状況下でも技術を駆使し、相 手国との信頼の絆を築き、あきらめない気 持ちでプロジェクトを成功裏に導く、これ こそがコンサルタントが目標とする活動で ある。その達成感を肌で感じることができ る開発コンサルタントの仕事は、多くの魅 力がある。

ECFAからのお知らせ

10月5日(土)、6日(日)に東京・日比谷公園で開催される「グローバルフェスタ2013」に参加します。開発コンサルタントの仕事の紹介やキャリア相談を行います。是非お越しください。

€[FI 一般社団法人 海外コンサルティング企業協会

1964年に設立され、わが国のODAを中心に海外で活躍する開発コンサルティング企業などの振興を通じ、国際協力の促進に寄与することを目的として活動しています。

〒105-0003 東京都港区西新橋1-6-13 虎ノ門吉荒ビル8F Tel: 03-3593-1171 Fax: 03-3593-1172